

③子宮腺筋症

子宮腺筋症も不妊症の一つの原因(着床因子)となっています。何らかの原因により子宮内膜組織が子宮筋層内に直接浸潤し、エストロゲン依存性に増殖する病気です。月経のたびに子宮筋層内で内膜組織が増殖して様々な症状がでます。一般的には妊娠により軽快して、閉経後には縮小、改善します。子宮筋腫や内膜症を高頻度に合併する事も多くそれらの鑑別を要します。

分類

子宮の前壁と後壁の両方に発生するびまん型と、前壁か後壁のどちらかだけの腫瘤形成型があります。

症状

- ①生理痛(痛みは子宮内膜症よりもひどくなります)
- ②過多月経
- ③月経期間の延長

検査所見

- ①超音波検査にて子宮筋層の肥厚を認めます。
- ②MRIにて子宮全体がびまん性に肥厚しているのがわかります。
- ③血液中の CA125 が上昇します。

治療

- ①鎮痛剤
- ②低用量ピル

低用量ピルは長期間安全に使用できます。富士製薬から 2008 年 7 月に発売された「ルナベル」は「子宮内膜症に伴う月経困難症」で保険適応にもなり、月 2300 円/月程度と安く処方出来るようになり患者の負担が減りました。

また 2010 年末にバイエル薬品から発売された「ヤーズ配合錠」は、卵胞ホルモンの量が今までの低用量ピルの 3 分の 2 と、現在日本で使用されているピルのうちで最も低く、「超低用量ピル」とよばれます。「月経困難症」の病名で保険適応となりましたので月 2600 円/月程度で処方が可能となります。

- ③手術

妊娠を希望する場合は子宮腺筋症切除術を行います。筋腫と異なり境界が不明瞭なため手術は困難なケースもあります。また再発もしやすくなります。手術により月経痛の改善を認めるケースが多いため、手術適応例には積極的に施行すべきと思われます。手術後の妊娠例は基本的には帝王切開とします。